



発行所 独立行政法人 国立病院機構 西別府病院
 住 所 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地
 TEL 0977-24-1221 FAX 0977-26-1163
 ホームページアドレス [http\(s\)://nishibeppu.hosp.go.jp](http(s)://nishibeppu.hosp.go.jp)
 印 刷 有限会社 中央印刷



九酔溪（九重町）

目 次

| | | | |
|----------------------------------|---|-------------------------|----|
| ごあいさつ | 2 | 健康フェアのご案内 | 7 |
| 医局紹介 小児科・小児精神科 | 3 | 地域医療連携室だより | 8 |
| THE 日本の夏祭り | 4 | ランニングの10個の嬉しいメリット | 9 |
| 「子供肥満教室」を開催して | 5 | 職場紹介 | 10 |
| 第1回 医療安全管理研修 | | 永年勤続表彰 | 11 |
| 「医療トラブルについて」を開催して | 6 | おしらせ「NHO PRESS」 | 11 |
| 電動車椅子サッカードキュメンタリー映画『蹴る』上映会 | 7 | | |

理 念 私たちは、常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します

基本方針 1. 患者中心の医療 2. 患者の権利と尊厳を守る 3. 政策医療の推進 4. 地域医療への貢献
 5. 最良・安全医療の提供 6. チーム医療の推進 7. 経営基盤の確立

患者さまの権利 1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利 2. 十分な説明を受け、質問する権利
 3. 自分で医療の内容を決定する権利 4. プライバシーを保護される権利 5. カルテ開示を受ける権利
 6. セカンドオピニオンを受ける権利 7. 臨床研究への参加と拒否の権利

ごあいさつ

今後の病院運営について

事務部長 馬 渡 永 年

令和元年度の当院の経営状況について、昨年度は何とか黒字決算（経常収支率100.5%）となりましたが、医師の人事異動や退職等に加えて患者数の大幅な減少により大変厳しい状況に陥っています。理事長メッセージ（新しい時代へ）にもあるように、まずは、単年度黒字化を目標に、より一層の経営改善に努めることは勿論のことですが、民間を含めて医療機関が競合している別府市において、地域のニーズに対応するための当院が担っている重症心身障害児（者）、筋ジストロフィー、神経難病などのセーフティーネット系医療を安定的に提供する診療体制や、結核病床のあり方、そして、病院全体の病床機能・病床規模を改めて見直す必要性を感じています。また、建築後50年以上が経過し老朽化が著しい一般病棟（中病棟）と栄養、電気・ボイラー等の中央サービス部門の機能維持管理についても喫緊の課題となっています。いずれにしましても、診療の質の維持及び設備整備のための必要な投資は、安定的な病院運営（経営基盤の安定化）が大前提となりますので、今後の西別府病院の発展のために、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年度前期を振り返って

看護部長 中 尾 とよみ

早いもので、4月に着任し令和元年度も前期が過ぎようとしています。西別府病院での約半年を振り返ってみました。着任時、当院の課題は、経営の健全化、赤字からの脱却に向けて、特に患者数の減少が顕著であった中2病棟（一般病棟）の患者数の確保と地域医療連携室の強化でした。

そこで、近隣の急性期病院との連携強化を図り、患者数確保につなげることになりました。今年度より地域医療連携係長兼任の副看護部長と訪問看護認定看護師とともに院内の慢性期病棟の空床運用を効率的に行えるよう、副院長の指揮の下、多職種と協働システムを構築しました。徐々にですが、紹介患者数の増加につながってきています。

また、中2病棟（一般病棟）の患者数確保のために看護部でできる取り組みは何か？病棟師長を中心に話し合いを重ね、人工呼吸器を装着したレスパイト患者の受け入れも行えるよう、5月から病棟スタッフ全員が、人工呼吸器稼働病棟への研修参加と学習会を行いスキルアップを図りました。また、同様に患者数が減少していた結核病棟も6月から研修に参加しました。医師の協力もあり、徐々に患者数も増加しています。まだまだ、赤字からの脱却には至っておりませんが、職員一人一人が自分にできる経営参画を考え、患者数確保に努めています。

看護部としても、職員が働きやすい環境が提供できるよう、更衣室や仮眠室の整備を行い、災害時の安全確保や夜勤者が快適にすごせるよう環境整備しました。また、ユニフォームも更新予定ですが、経営面も考慮したうえで、デザインはスタッフに投票で選んでもらいました。また、看護学生の更衣室や食事スペースも大幅に整備し、実習しやすい環境になるよう努めています。

看護の質の向上に向けては、神経・筋難病や重症心身障害児（者）等、非がん患者への緩和ケアへの取り組みや、意思決定支援のありかた、また臨床における倫理的な課題など取り組まなければならない課題が山積しています。このような課題に対し、看護師長や副看護師長と共に取り組みを行っています。病院理念である「私たちは常に研鑽し、患者さまのために最良の医療を提供します」のもとに、令和元年度後期も職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

医局
紹介

小児科・小児精神科

小児科部長 今 井 一 秀

当院の小児科は、後藤院長を含め5人体制です。一般の病院ではあまり診ることのない慢性疾患を中心に外来診察をしております。

主に診ている疾患は、てんかん、脳性麻痺、腎臓病、肥満、糖尿病、低身長、発達障害など、あまり聞き慣れないようなものかもしれません。慢性的に経過をし、長期間にわたる治療が必要となる疾患を対象としております。

また、入院も専門的に診ている疾患によっては、長期にわたって必要なことが多く、県内で唯一病院のそばに学校(石垣原支援学校)が併設されており、入院中も学校に通いながら治療を進めていくことができます。

また当院は県内にある重症心身障害児者施設として、120名の患者さんの入所施設として機能しており、障害を持って在宅で診ることが困難な患者さんの受け入れ施設であります。近年医療技術の高度化により以前は亡くなられた患者さんも、人工呼吸管理や経管栄養(口から食事が食べられない患者さんに管を通して栄養を行う方法)など、高度な医療的なケアによって退院できるようになってきました。近年在宅での医療的ケアができるような社会的資源(訪問看護や訪問介護の施設や制度など)が充実してきましたが、自宅で24時間人工呼吸管理をすることが困難な症例によっては、ご家庭の事情や症例の重症度により当院に入所する必要がでてきます。そのため、施設全体では100台近くの人工呼吸管理の患者さんが入所されており、重症心身障害児者病棟では、14名の患者さんが人工呼吸管理となっております。また人工呼吸管理にはな

らないまでも、呼吸のサポートが必要になるために気管切開といって皮膚と気管をつなぐ手術をして気管カニューレという器具を使っている患者さんもいます。これらの患者さんは痰の郭出が困難なため、胸を押したり、カフアシストという機械で掃除機のように痰を引いたりする処置をすることで肺炎を起こすことが少なくなりました。その患者さんのために、歯科、看護師やリハビリテーションの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士などの他職種がサポートしております。土日祝日も交代でカフアシストを行い少しでも感染の可能性を減らすように日々努力しております。

また在宅での患者さんのために、短期入所や日中一時支援にも努力してきております。短期入所とは、自宅で介護を行っている方の病気などの理由や、レスパイト(休息)のために短期間施設入所をして頂き、食事や入浴、排泄などの介護を行うサービスです。病棟の空床利用のため、利用できるベッドが限られており、また当院の患者さん以外も、重度疾患の方の利用ができる当院に希望が増えてきており、お断りすることがあり施設の使命として今後の課題となっております。

障害を持った方でも安心して暮らしていける環境をサポートできるように今後も努力していきます。

担当医師 **今井 一秀** (小児科部長)大分医科大学(現大分大学) 卒
小児科専門医

THE 日本の 夏の祭り

療育指導室 保育士 荒川美里

今年の夏祭りは、7月10日(東3病棟)、7月11日(東4病棟)、7月30日(東1病棟)、7月31日(東2病棟)、8月2日(東5病棟)に開催しました。今年のテーマは「日本の夏祭り」です。今回は、どこか懐かしく、皆さんになじみのある定番の夏祭りを感じていただけたらと思い、このテーマにしました。北島三郎の「まつり」の音楽や別府の盆踊りといえば「ヤッチキ」、屋台をイメージして作った装飾、法被や豆絞りの衣装などを内容に盛り込み、「日本の夏祭り」を感じていただけたのではないのでしょうか。

東3・4病棟

東3、4病棟は、北島三郎の「まつり」の音楽に合わせ、スタッフによる御神輿隊の登場で会場が一気に盛り上がりました。



ゲームの様子



御神輿登場



参加賞受け取り

病棟看護師長等の挨拶の後に、金魚すくいならぬ「金魚釣り」ゲームを楽しみました。釣り竿やポイのいずれかで金魚をゲットしました。3チーム対抗で釣った数を競い、1位のグループには、お楽しみボックスの色を選んでもらいました。そして次は盆踊りです。盆踊り「ヤッチキ」を会場一体となって踊りました。その後は、風鈴の音色でクールダウン。会場は次第に暗くなり、ドーンという音とともに、スクリーンには大きな花火が打ち上がりました。夏祭り終了後は、皆さんに参加賞が配られ、終了しました。

御神輿の様子



金魚すくいの様子



抽選会の様子

東1・2病棟

東1、2病棟は、病棟医による挨拶、病棟看護師長の挨拶から始まりました。金魚すくいゲームと御神輿隊による写真撮影に分かれ、各部屋を回りました。金魚すくいゲームでは、釣り竿を持ち、抽選番号が書かれた金魚を釣りました。御神輿隊による写真撮影では、スタッフが「わっしょい」とかけ声とともに病棟内を練り歩きました。そして、お待ちかね抽選会です。今年もはずれ券なしの抽選会となっており、初めて当選した方もいて、大変盛り上がりました。そして、最後はスタッフが各部屋を回りながら「ヤッチキ」を踊り、フィナーレを迎えました。

東5病棟

東5病棟は、療養介護の契約をされている8名の利用者を対象に、各部屋で開催しました。神経内科部長、病棟看護師長の挨拶の後は、御神輿の登場で、一気に祭りの雰囲気になりました。当日はご家族の参加も多く、お孫さんの可愛らしい声も聞かれました。内容は抽選会、盆踊りや写真撮影などで、短い時間ではありましたが、病棟スタッフ、療育指導室スタッフによる手作りの夏祭りを堪能して頂けたと思います。

病棟夏祭りの様子



最後に、行事の開催に当たり、多くのボランティア、スタッフのご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。

「子供肥満教室」を開催して

理学療法士 林 威 寛

第30回目の「子供肥満教室」を7月26日に開催致しました。「子供～」とはありますが、内容は小児から成人における肥満の概要、問題点等を小児科医、糖尿病専門医、心理療法士、管理栄養士、理学療法士等の各分野の専門が説明していくというものです。対象者は肥満でお悩みのご家族であったり、幼稚園、小・中学校、特別支援学校の教諭の方、メタボを気にされている方等、肥満に関心のある方ならばどなたでもご参加いただけるものでした。

私が理学療法士として担当し、肥満と運動療法について述べさせていただきます。その内容についてご紹介させていただきます。

まずは肥満の判定、つまりあなたが太っているかどうかの判断基準です。

BMI：この値が25以上であれば肥満と定義されます

$$\text{BMI} = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$$

肥満度 (%)：この値が+20%以上でも肥満と定義されています

肥満度 (%)

$$= (\text{実測体重} - \text{標準体重}) \div \text{標準体重} \times 100$$

※標準体重 = 身長 (m) × 身長 (m) × 22

さらに腹囲（へその位置でのお腹周り）が男性で85センチ以上、女性で90センチ以上、小児で80センチ以上ある場合は上半身肥満（内臓脂肪型肥満）といって、合併症を伴いやすいです。

次に肥満におけるリスクについて述べます。体に脂肪を蓄えすぎると各種疾病を併発するリスクが増大します。肥満度20%を超えると死亡率が1.2倍、40%を超えると1.5倍に増大します。また適正体重に比べ糖尿病は約5倍、高血圧症は約3.5倍、心臓血管障害は約2倍と合併のリスクがあります。



平松小児科医師



林理学療法士



次に肥満の治療方法について述べます。原則は摂取エネルギーが消費エネルギーより少なくなるように、継続して長期間保つことによって体脂肪を減少させていきます。そのため食事療法による減食が基本ですが、運動療法と並行して行うことが必要で、どちらがかけても永続的な減量は困難です。

体重1キロ減量するには7,000キロカロリーを消費しなければいけません。運動による脂肪の減少（減量）を図る場合、健康で適切な減量スピードは1週間で-0.5キロといわれています。そのために必要な運動量は、一日の消費エネルギー量の約10%、つまり個人差はありますが運動により一日に約300キロカロリー程度を消費する必要があります。

どんな運動をどれくらいの頻度で行っていくのか。

- ・有酸素運動（ウォーキング・ランニング・水泳・自転車等）はインスリンの感受性の改善、脂肪の燃焼に効果的です。会話しながらできる程度の負荷（もしくは脈拍が120を超えないように）で、時間は15分以上（60分以内）かけて行います。
- ・無酸素運動（筋力トレーニング）は筋量を増やすことで基礎代謝の向上を図ります。

1回のトレーニングで体に生じた効果は3日以内に低下し、1週間ではほとんど消失してしまいます。持続的な効果をもたらすためには週に3回以上は運動を行う必要があります。

最後に激しい運動と、極端な食事制限は栄養不足になってしまい、運動の効果もでにくいです。また体重を落とすことではなく、体脂肪を落としていくことが大切です。その際の注意点として筋量を落とさないよう気をつけなければいけません。短期集中で体重の減少を行うと、たとえ成功しても筋量も落ちてしまい、リバウンドの可能性が高まります。日々の体重変化に一喜一憂せず、長期的に取り組んでいくことが大切になります。

第1回 医療安全管理研修 「医療トラブルについて」を開催して

医療安全管理係長
中谷直美

2019年7月31日(水)、河野千野弁護士事務所弁護士 千野博之先生をお迎えし、第1回医療安全管理研修を開催しました。今回は「医療トラブルについて」というテーマで、事前に職員から募集した質問事項についてご講演いただきました。興味深いご講演の内容を紹介致します。

まずは、診療費滞納への診療拒否や職員への精神的嫌がらせへの対応についてです。これらは、応召義務(医師法19条)との関係が問題になります。応召義務は、日本の医師法において医師の職にある者が診療行為を求められたときに、正当な理由が無い限りこれを拒んではならないとする法令で定められた義務のことです。裁判例では、①緊急性がない場合、②他の病院でも治療が可能である場合、③信頼関係が破壊されたと認められる事情がある場合、に正当事由が認められる旨を判示したものがあります。従来の行政解釈の考え方からすれば、診療費滞納という経済的理由では信頼関係喪失には該当しないとされる可能性が高いです。また、職員への精神的嫌がらせに対して、患者との信頼関係が損なわれたという理由で診療拒否することは応召義務に違反しないとした裁判例について説明されました。

次に、医療トラブルにおける看護記録の問題となる点についてです。看護記録は診療記録に含まれ、診療記録は医療訴訟では、診療経過等を裁判所が認定するうえで極めて重要な資料となります。診療録よりも看護記録の方が詳しく記載されているため、時系列的な経過は看護記録によって認定される可能性が高いで

す。したがって、看護記録にはできるかぎり正確かつ詳しい記載が求められます。看護記録の記録時刻から、記載の一部はかなり遅れて記録されていることが伺える場合に、この点を患者側から指摘された例がありました。遅れて記録したことを合理的に説明する必要があります。

最後に、他院の裁判例で、診療中の輸血拒否の事案です。患者は輸血を拒否する旨の表明と輸血謝絶兼免責証書を担当医に提出していました。輸血したことによる人格権侵害の事例と無輸血により死亡し遺族から損害賠償請求された事例でした。輸血拒否という特殊事情のない場合に比して、より詳細かつ正確に治療の医療行為としての必要性、有効性、危険性、病院の方針等を説明して、患者の理解を得る必要があったにもかかわらず、他の有力な選択肢についての説明が行われていないこと等を指摘して、担当医の過失を認めていました。患者に対して十分な説明を尽くして患者の理解を得る努力をしたか否かが重要となります。

質問事項について、法律における視点や考え方、実際の裁判事例、そして具体的な対応について説明していただきました。研修後のアンケートでは、「研修内容を今後活かせる・ほぼ活かせる」が9割を占めていました。法律に関わる内容のため「言葉が難しかった」というご意見もありましたが、「患者への説明の重要性」「記録の重要性」への理解が深まった感想も多く、研修開催の効果を実感することが出来ました。

原副院長
による
講師紹介





電動車椅子サッカードキュメンタリー映画『蹴る』上映会

療育指導室 主任保育士 神鳥悦子

2019年8月7日当院の療育支援棟ホールにて、電動車椅子サッカードキュメンタリー映画『蹴る』の上映会が開催されました。

この上映会は、日本筋ジストロフィー協会のご協力により、実現したイベントです。来年春に公開のドキュメンタリー映画に先行して、全国の筋ジストロフィー病棟で事前の上映会を開催しているそうです。当日は、東京より事務局の方が来院してくださいました。

東1病棟～東5病棟の療養介護サービス、医療型障害児入所支援サービス対象の方々、小児外来患児およびご家族、自立支援協議会の方々や別府支援学校石垣原校の先生方などに鑑賞していただきました。

内容は、重度の障害を抱えながら、電動車椅子サッカー W杯出場にすべてをかける選手たちを、6年間に及び撮影した長編ドキュメンタリーです。

2時間弱もの映画ではありましたが、各病棟スタッフの配慮により全編通して視聴することができました。また都合により会場に行けなかった視聴希望者には、お借りしたDVDをベッドサイドで順番に観ていただきました。

終了後「こんなに熱中することがあっていいなと思いました。」「想像以上に迫力のある映像で感動しました。」などの感想が寄せられました。

本物のストーリーに触れることで、多くの感動をいただきました。今後も病棟と連携しながら、このような活動を提供する機会を増やしていきたいです。



大木療育指導室長と上映会事務局の方



2019 健康フェアのご案内

人生100年!!考えよう健康的な未来を

日時 **10月12日** 10時～13時

場所 独立行政法人 国立病院機構
西別府病院

- 医師による健康相談コーナー
- 出店コーナー
- 子供調剤体験
- AED講習
- 生活満足度評価
- 骨密度測定 (先着90名様)
- 肺機能検査 (先着50名様)
- 栄養相談コーナー
- 健康チェック

10時より
整理券配布

地域医療連携室だより

地域医療連携室
医療社会事業専門員
牧内寛弥

糖尿病教室の開催について

糖尿病患者および予備軍は、全国で2,000万人にも
のぼると言われており、5人に1人もの数に及ぶとさ
れております。(「H28年国民健康栄養調査」重点調査
項目結果より)

糖尿病は古くから知られている病気ですが、最近の
増加は食生活の変化や運動不足、ストレスの増加と
いったものと無縁ではありません。

糖尿病は、特にどこが痛いわけでもなく、合併症が
進むまでなかなか症状がでにくいので、放っておいた
り、いい加減な治療のみですませたり、また治療を勝
手にやめてしまう方も少なくありません。しかし、療
養を怠ると脳卒中や心筋梗塞等を引き起こすリスクの
高くなる厄介な病気です。その反面、適切な治療を続

けていれば、健康な人と変わることなく生活するこ
とができます。

そこで西別府病院では、今年度より第2・第4火曜
日の14時より中3病棟研修室にて糖尿病教室を開催
しています。糖尿病になる前に、どのようなことに気
をつければ良いのかといったことや、糖尿病について
の正しい知識や予防等を、当院の医師や管理栄養士が
わかりやすく説明いたします。入院患者様や外来患者
様だけではなく、近隣にお住まいの方々もお気軽にご
参加下さい。

詳しい話を聞かれない方は、下記の問い合わせ先に
連絡をいただければと思います。ご参加のほど心から
お待ちしております。

問い合わせ先

栄養管理室長 藤原
医事専門職 吉岡

今後の
糖尿病教室
予定表

| 日程 | テーマ | 講師 |
|--------|-------------|-----------------|
| 11月12日 | 糖尿病の合併症について | 糖尿病・代謝内科部長 吉道 剛 |
| 11月26日 | 食事療法の基本編 | 管理栄養士 |
| 12月10日 | 糖尿病とは | 糖尿病・代謝内科部長 吉道 剛 |
| 12月24日 | 食事療法の実践編 | 管理栄養士 |
| 1月14日 | 糖尿病の合併症について | 糖尿病・代謝内科部長 吉道 剛 |
| 1月28日 | 食事療法の基本編 | 管理栄養士 |
| 2月25日 | 糖尿病とは | 糖尿病・代謝内科部長 吉道 剛 |
| 3月10日 | 食事療法の実践編 | 管理栄養士 |
| 3月24日 | 糖尿病の合併症について | 糖尿病・代謝内科部長 吉道 剛 |

※テーマは都合により変更することがございます。ご了承ください。



ランニングの10個の嬉しいメリット

業務班長 佐藤利彰

現在のストレス鬱積社会において、日常生活の多くの時間を費やす仕事や家事などで、身体的及び精神的な疲労が蓄積しているのではないのでしょうか。この状況を打破すべく、日々、活力ある生活を取り戻すため、このたび西別府病院にて、ランニング愛好会（仮）を立ち上げました。

日頃、運動していない方にとっては、「脚を痛めそう」や「疲れる」などネガティブな印象が強いと思います。私も以前は「ランニングのどこが楽しいの？」と疑念を抱いていましたが、あるきっかけでランニングするようになってから、心身ともに健康になっていくことを実感しております。

簡単に「ランニングの10個の嬉しいメリット」を紹介しますので、参考になれば幸いに存じます。

1 心身がリフレッシュし、ストレス発散になる

ランニングを行うと、「しあわせホルモン」が分泌され、精神的な不安やストレスを和らげ、悩み事を軽減し、自律神経が整い前向きな感情になります。



2 仕事の効率が上がる

ランニングは脳の「前頭葉」と「海馬」の活動が活発になるので、思考力、発想力、集中力及び記憶力のアップにつながり、頭が冴えて仕事の処理の能力アップが期待できます。



3 身体の様々な不調を改善する

ランニングを行うと血流が良くなるので、血行不良が原因で生じる冷え性や肩こり等は継続する事で症状が和らぎます。また、便秘の改善や老廃物が排出されることにより肌の調子が良くなるといった効果もあります。



4 新陳代謝が上がる

ランニングは血流の流れがよくなり、新陳代謝が上がるためダイエットの運動として大変効果的です。ランニングでエネルギーとして蓄積した脂肪が燃焼され減量する効果もあり、基礎代謝を増やします。



5 体力が向上し疲れにくくなる

ランニングを続けることにより、スタミナが付き、疲れにくくなります。心肺機能を鍛え、血流が良くなり疲労回復も早くなる効果があります。



6 時間の使い方がうまくなる

ランニングを始めるとスケジュール管理がマメになり、一日の時間の使い方が上手くなります。空いた時間を上手く好きなことに使ったり、充実した生活を過ごせるようになっていきます。働き方改革にも繋がります。



7 快眠効果がある

ランニングは脳の温度を一時的に上げ、終わった後に徐々にクールダウンすることにより、その温度差で副交感神経が働き、寝つきが良くなり深い眠りにつくことができます。



8 達成感を感じられる

走行時間や距離を決めてランニングすることで、走り終わった後に達成感を感じます。そして体重の変化や理想のボディラインに近づくことも大きな達成感となり、ランニングがどんどん楽しくなっていきます。



9 自信がつく

運動が苦手という方でもシューズとウェアがあれば簡単に始めることができ、自分のペースで進めていくことができます。ランニングが習慣化することで、着られなかった洋服が似合うようになったり、仕事が捗ったりと精神面や身体の変化を感じられ、自分に自信がつかます。



10 共通の仲間ができる

ランニングは1人で黙々と行うこともできますが、地域でランニングクラブ等に参加することで、年齢層も性別もバラバラな共通の仲間と出会うことができ、普段関わらない人と繋がることで人間関係の幅が広がります。



簡潔にランニングの10個のメリットを挙げてみましたが、継続することで何らかの心身の改善を感じることができます。

西別府病院ランニング愛好会（仮）では、現在、週に1度を目安に南立石公園を各人が自分のペースでランニングやウォーキングをしています。まずは運動できるスタイルで外出することからでも構わないと思います。個人では継続できないことも、大勢で行えば意外と継続できるものです。

これをお読みの方で、ご興味を持たれた方は、老若男女、院内、院外問わず、西別府病院企画課佐藤までご連絡ください。



職 場 紹 介

西別府病院で働くスタッフを
毎回紹介しています。
この科はどんな診察をするの？
この部署はどんな仕事なの？など
意外と知らない病院のこと
覗いてみませんか

九州リンパ浮腫センター

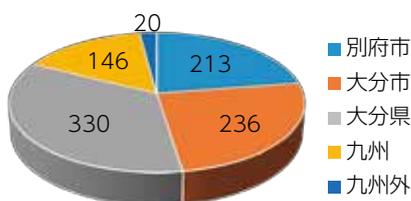
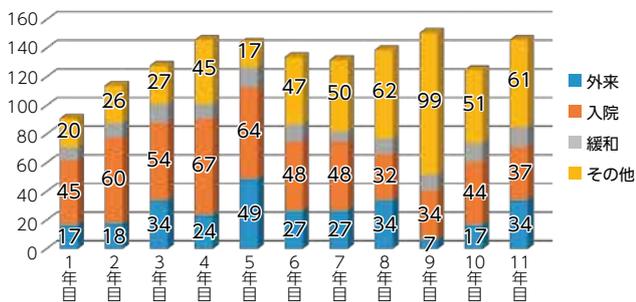


平成20年8月にリンパ浮腫治療室として開設され、平成24年に九州リンパ浮腫センターへ改組しました。これまでの11年間に全国から1,450例（内リンパ浮腫 945例）の患者さんが来院され、診療を行いました。

【リンパ浮腫】リンパ管やリンパ節の先天異常や癌の術後、再発などの原因によるリンパ流の灌流障害によって生じる局所性浮腫です。0-1期・軽症の時期には、外来で弾性着衣を調整し、2-3期・中等-重症の時期に進行した患者さんは、入院のうえ、メディカルリンパセラピストによる複合的理学療法とセルフケアの指導を行っております。さらに、癌の再発などで、受診が困難な患者さんには、往診も行っております。

【リンパ浮腫以外の局所性浮腫治療とその合併症など】

静脈瘤などの静脈機能不全性浮腫や、サルコペニア、肥満性浮腫さらに蜂窩織炎やリンパ漏、難治性潰瘍も、必要に応じて入院していただき、治療や弾性着衣の調整を行っています。



(外科部長 唐原 和秀)

企画課



企画課は現在、常勤事務5名（企画課長・業務班長・契約係長・契約係・経理係）、非常勤事務5名（契約係3名・財務管理係2名）、常勤電気士1名、派遣ボイラー技士1名、計12名のスタッフで日々業務を行っています。

皆さんの企画課のイメージはどんな感じでしょうか。まずは、物品の購入等で一番接点が多い**契約係**を思い浮かべる方が多いと思います。単純に物品購入するわけではなく、いかに安価で良い物を購入するか、また、物品の修理依頼があった場合でも修理か購入で当院にとって有益な方はどちらか、購入又は契約しているものが真に必要なのかを常に考えながら行動しています。

次に**経理係**です。病院の資金残高を確認しながら各支払いの手続き調整、資金繰りが厳しい場合は借入金の検討も行い、病院資金がショートしないよう綿密な運営管理等を行っています。

次いで**財務管理係**です。毎日の診療費及びその他の入金の確認、また未払いに対する督促業務も行っていきます。特に診療費においては電話・文書・出張のあらゆる督促、最終的には法的手段の手続きを行うこともあります。

続きましては、当院で平成31年4月に管理課から企画課への組織下に移行となった**電気士・ボイラー技士**です。企画課の組織下になったことにより設備関連も正式に企画課の業務範囲となりました。当院の空調や配管等の設備は老朽化が著しく、騙し騙し使用している状況です。企画課職員で出来る修理は行うようにしていますが、専門的知識が必要な場合は業者へ依頼する修理となり費用がかさんでしまいます。

東病棟を除く建物も設備以上に老朽化が顕著なため（特に中病棟及び外来管理棟…いずれも私とほぼ同学年、年齢で言うとうと50歳ほどです）、建替を切に願っているところです。今年度は特に厳しい経営状況となっており、建替を現実的なものにするため、この状況を何とかしないとはいけません。企画課の立場として厳しいことを言うこともありますが、どうか寛大な心で受け止めていただけますようお願いいたします。なお、相談をしていただくのは無料です（笑）ので、お気軽に企画課までお越し下さい。特に経営改善的なものは大歓迎（大好物）です。

腰が低く、フットワークの軽い企画課を目指しておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いたします。

(企画課長 山本 賢一)

永年勤続表彰

平成 31 年 4 月 24 日に永年勤続者への表彰式を執り行いました。今年は勤続 30 年の方が 2 名、勤続 20 年の方が 3 名表彰となりました。療養所・国立病院時代より当院及び国立病院機構施設に勤務され、長年の間職務に精励した功勞に対して賞状と記念品が授与されました。今後益々のご活躍を祈念致します。



| 区分 | 所属 | 職名 | 氏名 |
|-----|-------|----------|--------|
| 30年 | 医局 | 内科部長 | 瀧川 修一 |
| 30年 | 研究検査科 | 副臨床検査技師長 | 山下 祐一 |
| 20年 | 療育指導室 | 主任児童指導員 | 荻本 みわ子 |
| 20年 | 看護部 | 看護師長 | 福田 綾子 |
| 20年 | 看護部 | 看護師 | 園田 真由美 |



お知らせ



西別府病院は、国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）という 141 の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS ～国立病院機構通信～』を発行しています。当院では外来に設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。

「NHO PRESS」で検索してください。

